

# ドナウ の 四季

## 2017年・夏季号・No.35

バーバラ寺岡さんを偲ぶ	盛田 常夫	1
ハンガリーの騎射に触れて	早坂 麻里絵	3
子は親を映す鏡	日野 知香	4
競技かるたの世界へ	サボー・ピーテル	5
毎日を楽しみしてくれる「日本語」	サボー・ダーニエル	6
錦織選手に欠けているものは精神的な強さか、それとも身体的な強さか	盛田 常夫	7
留学生自己紹介	今井 恋	9
	中島 幸治	10
	大淵 唯太	11
みどりの丘日本語補習校	森田 紀花	13
	根岸 和奏	14
コンサート情報		16

# GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE

## ハンガリー・ヴィッラーニ地方の赤ブドウ加工品

GEREワイナリー製品

無添加自然加工(自然の恵みもの)

ポリフェノミクロン(商標登録申請中)



### 100% SZŐLŐMAG OLAJ

シードオイル(箱付き、250ml)

ポリフェノールと不飽和脂肪酸を含んだ赤ブドウの極上低温圧搾シードオイル

成分構成: 不飽和脂肪酸 min. 80%, ポリフェノール min. 6%

使用法: サラダなどの冷たい食べ物に直接かけたり、パンへ直接かけて、ほのかな香りを楽しみ、食欲を増進。

1日の摂取量: 小さじ1杯(およそ5g)を毎朝、可能な限り、空腹時に摂取するのが望ましい。



### SZŐLŐMAG & HÉJ MIKROŐRLEMÉNY

種子と果皮のマイクロ粉末  
(ポリフェノミクロン)  
(カプセル180個)



### 100% SZŐLŐMAG OLAJ/ KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

シードオイル&ポリフェノミクロンセット  
(化粧箱入り)

### KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

種子と果皮のマイクロ粉末  
(缶入り一徳用缶、150g)

ポリフェノールをふんだんに含む有機栽培赤ブドウの種子と果皮を粉碎したマイクロ粉末

ポリフェノール成分: 5gの粉末はおよそ250mgのポリフェノールを含む。

使用法: 粉末をそのまま食することは避け、ヨーグルトなどに混ぜて食する。

1日の摂取量: 1日に小さじ1杯の粉末を2回に分けて摂取。



小売の問い合わせ: morita@tateyama.hu

GEREワイナリー製品 日本総輸入元 立山科学ブルーブ ITM社

# GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE

薬剤に頼らない、自然のサプリメントを！  
赤ブドウのポリフェノールを凝縮したオイルと粉末で健康を維持しましょう！

## KÉKSZÖLÖMAG & HÉJ

ポリフェノミクロン(商標登録申請中)  
ポリフェノールをふんだんに含む有機栽培  
赤ブドウの果皮と種を粉碎したマイクロ粉末

**ポリフェノール成分:** 5gの粉末はおよそ250mg  
のポリフェノールを含む。

**使用方法:** 粉末をそのまま食することは避け、ヨー  
グルトなどに混ぜて食する。

**1日の摂取量:** 1日に小さじ1杯の粉末を2回に  
分けて摂取。



## 100 % SZÖLÖMAG OLAJ

ポリフェノールと不飽和脂肪酸を含んだ赤  
ブドウの極上低温圧搾シードオイル

**成分構成:** 不飽和脂肪酸 min. 80%, ポリフェノ  
ール min. 6%

**使用方法:** サラダなどの冷たい食べ物に直接かけ  
たり、パンへ直接かけて、ほのかな香りを楽しみ、  
食欲を増進。

**1日の摂取量:** 小さじ1杯(およそ5g)を毎朝、可  
能な限り、空腹時に摂取するのが望ましい。

小売の問い合わせ: [morita@tateyama.hu](mailto:morita@tateyama.hu)

GEREワイナリー製品

日本総輸入元 立山科学ブルーブ ITM社





## バーバラ寺岡さんを偲ぶ

盛田 常夫

バーバラ寺岡さんが6月2日にお亡くなりになった。享年72歳である。

日本人外交官の父とハンガリー人を母としてハンガリーで生まれた。終戦と共に大日本帝国の外交官は国外追放となり、さらにハンガリーに社会主義政権ができたために、旧ブルジョア階級はいわゆる「下放」として、田舎へ移住を迫られた。父が国外追放となったバーバラさん一家もまた、地方の町への移住を迫られ、お嬢さん育ちの母が途方に暮れているのを傍目に、未就学児のバーバラさんがいろいろな物を売り歩いて、その日その日の生活の糧を得ていたという。そういう経験が、彼女を「頑張り屋さん」に育てた。

バーバラさんの父はベルー大使、イラン大使を務め、サンフランシスコ条約締結時には吉田茂首相の秘書官として仕えた寺岡洪平である。祖父は日本海軍少将だった寺岡平吾で、曾祖父に当たるのが、新撰組の山脇正勝。バーバラさんには、寺岡家の家計を辿った書物がある。『新撰組サイドストーリー』（オフィスクムビア総合企画、2004年）がそれである。

バーバラさんが8歳の時に、幸運にもウイーンに脱出し、父親と再会を果たし、ようやく家族が一緒になった。そこから父の赴任に伴って世界各地で生活し、外務省を退官した後に日本に定住した。白百合学園に通い、順調な生活を送っていた高校時代に、お父さんが他界され、家族の生活が一変する。

生活能力のない母親に代わって、通訳などの仕事を始め、家計を支えた。そのため、学校から注意を受けるようになり、もともとそれほどなじめない校風だったこともあり、退学したようだ。ただ、この時のアルバイト生活の過労で体を壊し、以後、彼女の人生はいろいろな病気と闘う人生にもなった。

1960年代から70年代にかけて、バーバラさんはテレビの料理番組に良く出演していた。彼女にとって、料理は一生の仕事であり、趣味が高じて仕事になったというべきか。バーバラさんがハンガリー人だと知ったのはかなり後のことだ。

ほんの数年前に、堤一実さんから、バー



在りし日のバーバラさん

バラさんの話を聞いて欲しいというお誘いがあった。ハンガリー人生理物理学者のサース・アンドラーシュが来日しており、西洋医学に不信感を抱いているバーバラさんが、甲状腺がんの生体検査を受けるべきか否かの意見をサース教授から聞きたいということだった。サース教授は医師ではないが、温熱治療器の開発・製造・販売を通して、ドイツを中心に多くの医師との交流があり、各種がん治療の実際を世界各地でみておられる。

彼女が検査データを持参して、症状などをサース先生に説明していた。サース先生は、「自分は医師ではなく、診断を下すことはできないが、これまでの経験上、バーバラさんの症状はがんとは思えない。がんかどうかは別に、生体検査にほとんど意味

はない」という意見を述べられた。

その頃、バーバラさんは中国の予言や占いに凝っておられ、「自分を助けることができるのはSが2文字ついた人」という予言を聞いたので、サース先生のことを信頼したいという旨の話をされた。私もサース教授も、「予言」とか、「占い」とは無縁の生活を送っているのに、少々戸惑ったが、「病気のことをいつも心配していたのでは生活の質が落ちるから、精神的な力になれば良いかな」ということで、お別れした。

別の機会に、堤大使ご夫妻を交えて、銀座で昼食をご一緒した後、帝国ホテルのロビーでお茶になったのだが、バーバラさんは身上話を語り始め、実に4時間にわたって、彼女の波瀾万丈の一生を聞くことになった。

バーバラさんの書物や発明品もいただいて、ハンガリーに戻って来た。バーバラさんに、「ドナウの四季」に寄稿しませんかと提案したが、彼女はパソコンを使わないし、Eメールを使わないというので、原稿の話はうやむやになった。

その後、再びサース先生の訪日に合わせて、バーバラさんからお宅に招待したいというお誘いがあった。堤一実さんと一緒に、代々木にあるかなり広い寺岡家の地所にあるお宅を訪問し、昼食をいただいた。その時に、グルテンフリーの食材の重要性などを聞かされながら、彼女が調理した食事をいただいた。広い庭はもう砂利だけの更地になっていて、そこに動かないキャンピングカーが止まっていた。いろいろな記念の品物がそこに収納されていて、地震があっても生活できる準備が整っているとのことだった。

いろいろな病気をした経験から、何ごとについても、事前に準備しなければという観念を抱いている人だった。自分の体どこか悪いのか、一度、全身の徹底検査をやらしてもらいということだった。天皇陛下なら





寺岡家写真：前列左より、祖母勝子、祖父平吾、母エリザベート。  
後列左より、父洪平、バーバラ

まだしも、下々の人がそのような検査を受けることはあり得ないと思ったが、一度だけ、大学病院の医師に意見を求めたことがある。ひとそれぞれに不都合なことや、加齢から来る病気があり、それをくまなく調べることが意味あるとは思えないということだった。

そもそも人の体はロボットと違い、いろいろ不都合があっても、生体の自然制御でなんとか機能を保っている。病が生命維持機能を犯すようになれば、どんな治療も効果がない。ロボットのように部品交換して、人体が修理されることはないから、完全修理を求めるといふ発想は間違っている。長生きしたければ、日頃から摂生に努め、体の機能が劣化しないように適度の運動を行い、自分を律していくより方法がない。そ

れでも致命的な病にかかるのであれば、それを天命として受け入れるしかないのではないか。部分的な病気を探して治療していたのでは、かえって生活の質が落ちて、後悔することにはならないか。だから、私自身は、不要不急の検査は行わないことにしている。自分から病気を探すことはしたくない。

バーバラさんは、これといった痛みはないが、腹水が溜まるので、診療を受けたようだ。しかし、腹水をもたらず腹膜がんがどこから発生したのかは分からないということだった。しかし、無用な治療を受けることなく、痛みを苦しむこともなく、静かにお亡くなりになったという。合掌。

(もりた・つねお)

大使時代の父、寺岡 洪平氏





## ハンガリーの騎射に触れて

早坂 麻里絵



組がきっかけでした。まるで日本の流鏑馬のような競技があるのだと驚きました。3月に妹がリスト音楽院のマスタークラスに参加することが決まっていたため、同行する決心をしました。馬術が盛んなヨーロッパで馬に乗れることへの期待に胸が弾みました。

ハンガリーでは現地の方の紹介でハンガリーの騎射の権威であるカッシュイ・ライオーシュ氏に会うことにな

り、ブダペストからカボシュメーロまで出かけることになりました。訪ねた日はハンガリー中の乗馬クラブから人が集まり、騎射の昇格試験と入団試験が行われていました。騎射とは馬上で弓を射ることを意味し、大陸では狩りが欠かせないため遊牧民が得意としている

のままの騎射を広めたいと話していらっやいました。受験者はもちろんこれから学びたい人や観客がたくさん来ていてまるでお祭りのようで、とてもメジャーなものなのだと感じました。

日本の流鏑馬とハンガリーの騎射の違いを述べると、私が騎射体験をしてみず感じたのは馬の速度です。流鏑馬は放てる矢が3本のみでタイム計測もあるため、スピードがあります(日本の流鏑馬は的を射た数と走路を走りきるまでのタイムを合わせた点数で競います)。走路は180~200m、的は50~60m間隔で3個。的までの距離は3~4m、的の高さは1.5~2mです。

ハンガリーの騎射は9m離れた1つの的に向かって3方向から10本以上もの矢を放つため馬のスピードは遅いですが、その分矢は早打ちで実戦的です。

日本の流鏑馬は戦う要素より姿勢や型を大切にしているため矢を放つ動作には時間をかけてなるべく美しく見えるようにします。弓の長さや打ち方などいろいろなことが真逆でとても新鮮に思いました。

カッシュイ先生の牧場では馬は敷地内に放し飼いにされていて、訪れた人々はそれを特に珍しくもない様子で過ごし、自然に馬と触れ合っていることに驚かされ、人と馬の距離がとても近いことに感激しました。馬に乗る時も鞍や銜(ハミ)など馬の負担になるものをなるべくつけないと聞き、遊牧民らしい考えだと微笑ましく思いました。

日本は昔、馬は武将しか乗れないような時代があったためそ

の名残なのか、乗馬は敷居が高いものと思われがちかもしれません。もっと多くの人々に流鏑馬も馬術も興味を持ってほしいという思いを込めてこのレポートを締めくくりたいと思います。またいつの日かハンガリーを訪れる日があることを心より願って…。

(はやさか・まりえ)

私が初めて馬に乗ったのは両親に連れていってもらった牧場でした。3歳だったのでうっすらとした記憶しかありませんが、ポニーに乗り、引き馬で1周するというものを面白がって10周したそうです。

小4から乗馬を習い始めるも他に興味が移り、馬に触れたいと思いつつも日々追われてしまいその気持ちだんだんと薄れていきました。

3年前にまた乗馬をしたいという気持ちが強くなり「えにしホースパーク」を見つけて体験レッスンに行きました。偶然にも小学校時代の同級生が家族で経営していると知り、さらに宮城県で唯一、流鏑馬(やぶさめ)を習えるクラブということもあり、入会を決めました。

そもそも流鏑馬とは神事であり、寺社への奉納行事として披露することが多いため、一般人や特に女性が容易に愛好できるものではありません。そこでスポーツとして誰でも参加できるように作られたのが「競技流鏑馬」です。私が初めて参加した流鏑馬の大会は、青森の十和田で行われる「桜流鏑馬」で名前の通り満開の桜の下で行われ、参加するのも女流騎手だけの大会でした。初めての参加にも関わらず新人賞を頂けた喜びは今でも鮮明に覚えています。

ハンガリーへ行ってハンガリーの騎射を体験してみたいと思ったのはNHKのTV番



馬術の一種でもあります。

実技とは別に詩の朗読や5キロのマラソンなど戦士としての精神力と体力を培うための試験もありました。生徒たちは道着のようなものを着ており(日本の道着そのものです)、帯の色で段位分けをしていました。

カッシュイ先生はハンガリーの原住民であるフン族の生活や戦い方になるべく近い形

## 子は親を映す鏡

日野 知香

ハンガリーに来て1年。ハンガリー生活と言えるほど、日本での生活と違うことは特に思い当たらない。毎朝バタバタと夫を送り出し、子どもたちを幼稚園へ送り、用事を済ませて、子どもたちのお迎え、夕飯、お風呂、ドタバタの夜が過ぎ、寝かしつけという名の寝落ち……。この1年で悩んだことも結局育児のこと。日本にいても同じことを悩み、同じ結論を出したであろう。

せっかく海外で生活をするのだから、何かこれというものを残したい、そんな思いでハンガリーでの生活をスタートさせた。しかし、子育て真っ最中の私にとって、自分の時間はほぼなく、子どもを追いかけてまわしているうちに1日が終わり、あっという間に1年が過ぎた。何をしていたのだろう。一見、1年を無駄に過ごしてしまったようにも思う。しかし、日本と変わらない生活、それはとても幸せなことなのだと感じる。

朝忙しく出かけていく時も、隣人やバスの運転手さんなど挨拶する人がたくさんいること、子どもたちが喜んで幼稚園に行き楽しめていること、鍵を持たずに外に出たから鍵を開けてくれと頼ってくる隣人がいること、夫が骨折をして松葉杖で歩く姿をみて「何があった？」と声をかけてくれる人や心配してメールをくれる人がいること、道端でイヤイヤ期の息子に途方に暮れている時、声をかけ泣き止ませてくれる近所のおじさんがいること。どれも特別なことではないが、ハンガリーという異国の地で日本にこのようなコミュニティができ、当たり前のように生活できているということは、それだけで私たちにとって財産だと感じている。

主婦として家事、育児を頑張っているだけでは何も得られていないような気がしていた。働いていた時のような評価や達成感のない生活は物足りないような、周りから

取り残される焦りもあった。しかし、家族の生活を支えるために、日々必死に暮らしてきたことは自分のスキルとなっていた。そして、私が苦勞しているときにサポートしてくれる人は、日本人ハンガリー人問わず周りに沢山いた。日本にいる頃ヨーロッパで起きた悲しいニュースを目にし、警戒心が強くなってしまっていた私は、最初は予定外の来客にすら緊張していた。そんな私が少

が楽しくなってきた。

子は親を映す鏡というが、ハンガリーに来たばかりの頃、私から離れることの出来なかった子どもたちは、今ではハンガリー語や英語を少しずつ話すようになり、近所の人に自分から挨拶するなど、どんどん社交的になった。綺麗な女の人にはしつこく挨拶するようになった息子を見て、恥ずかしくなることもあるが、どこへ行っ

ても可愛がられている子どもたちを見ることは親としてとても幸せだ。

こちらの幼稚園での生活は初めて親から離れての集団生活であり、かつ言葉もわからないため、子どもたちにとって大変なことだったと思う。しかし、ハグアンドキスというわかりやすい愛情表現を毎日たくさんの人にしてもらったことにより、子どもたちは周りの優しさや愛情をしっかり受け取ることができ、今では相手に合わせた言語を使おうとしている。初対面の通りすがりの人にまで挨拶をして、楽しそうに走り回る子どもたちは、まさに私の心を映しているのだろう。ハンガリーの人たちとずっと仲良くなりたい、毎日をもっと楽しみたい、それが今私が思っていることだ。

夫、父の赴任についてきた家族、ではなく、それぞれが自分たちの生活を主体的に楽しみ、日々を過ごしていきたい。そんな私たちを見て、夫もさらに仕事へ意欲的に取り組んでほしい。これ、と言えるものはないが、周りの人たちとの出会いに感謝し、主婦として今日も当たり前の生活を大切に、家族が元気に仕事や幼稚園へ行ける家庭をつかっていきたいと思う。そして日本に帰るときには妻、母として少し自信をもった女性になりたい。

(ひの・ちか)



し戸惑うこともあったが、困った時手を差し伸べてくれた人に甘えてみたことで、そこできると会話をした欲求が出てきて、片言のハンガリー語や英語を使ってみる、相手の言語を使うことで少し距離が縮まる、それ



## 競技かるたの世界へ

Szabo Péter

競技かるた。昔の日本の時代感溢れる小倉百人一首を用いた活動です。文化活動や伝統の保護という側面もありますが、一方で高度な瞬発力や記憶力や精神力が必要な競技かるたはスポーツとしても取り組まれています。

私が競技かるたと出会ったのは、「ちはやふる」というアニメのお陰でした。その時は、ルールもよくわからなくて、日本語も勉強し始めたばかりのころでした。しかし、楽しくかるたをやっている登場人物を見ていると私も楽しくなってきて、「いつか自分もやってみたい」と思いました。その日はあまり遠くないと、その時はまだ知りませんでした。

初めてかるたをやってみることができたのはそれからほんの1年後の、2年生の時でした。国際交流基金ブダペスト日本文化センターで日本人の先生がかるたのやり方を教え始めて、みんなで一



緒に練習ができる機会を作ってくださいました。そのかるた会に、私も毎月参加することになりました。それまでアニメで見た、わからなかったルールや戦略がだんだんわかるようになってきて、あとは歌を覚えることしか残っていませんでした。ちなみに、私の一番好きな歌は8番目の歌です。理由は単純で、初めて覚えた歌だからです。

わが庵は都のたつみしかぞすむ

世をうち山と人はいふなり

覚えた時は、まだ意味を知らなくて、ただ歌の響きが気に入りました。どんな意味を持っているかそれからもっと調べると、「私の庵は都の東南にあり、辺りには鹿もいるほど寂しいが、これこの通

り静かに暮らしている。それなのに人は私を世の中をつらいと思って宇治に通れていると言っているようだ」([https://www.shigureden.or.jp/about/database\\_03.html?id=8](https://www.shigureden.or.jp/about/database_03.html?id=8))という説明が見つかり、ポジティブな意味を持っている歌ではないことがわかりました。だからこそ、他の人はあまり好きじゃないだろうと思って、毎回絶対取る気で行きます。

そして、もっと楽しく勉強する為、バイトで頑張ってお金を少し貯めて双子の兄と一緒に百人一首の札セットを買いました。それで、友達と一緒に練習できて、それぞれの歌の意味もわかるようになりましたから、かるたがもっと好きになりました。800年前に生まれた歌が表している気持ちが今でも自分の心に再現されるというのは面白い経験でした。昔の人たちも現代の人たちも、気持ちは同じなんだな、と思いました。そして、覚えている歌がどんどん増えて、ゲームももっと楽しくなりました。

かるた会の最終回は団体戦が行われると発表されたので、みんなで盛り上がり5人ずつのチームに分かれました。私のチームには、双子の兄と、日本学科で知り合った友達と、2人の日本人がいました。その2人の日本人の方とは大会の日に初めて会いましたが、すぐ仲良くなって、一緒に上を目指して頑張りました。その結果、何と2位という素晴らしい順位をいただきました。その日は今でも大切な思い出の一つです。

かるた会はこの大会で終わってしまいましたが、秋になったら、大学で競技かるたが好きな先輩が「ELTEかるた部」を創設しました。今でも毎週2回大学で集まって、一緒にかるたをやっています。いろいろ教えてくれる、強い先輩たちもいると同時に、私を少しでも先輩として見てくれる、まだ歌を覚え始めたばかりの人たちもいますから、一緒に時間を過ごすのはとても楽しいです。

かるたのお陰で新しい友達がたくさんできて、集中力も記憶力も強くなって、日本語も少し上手になった気がします。

競技かるたの世界へ入ってよかったと思います。かるたはどんなに楽しいことなのか、できるだけ多くの人に伝えたいですし、かるた部の参加者も増やしたいので、この文章を読んで興味を持ったら、是非「ELTEかるた部」に来てください。私は10月から留学することになりましたから、1年間かるた部の活動ができませんが、絶対に日本でもかるたをやり続けて、大会にも挑戦してみたいと思っています。

「ELTEかるた部」へのお問い合わせはこちらにお願いします。

kyogikarutahu@gmail.com

(サボー・ペーテル)



# 毎日を楽しんでくれる 「日本語」

Szabo Dániel

外国語を勉強している人たちはいったいなぜその外国語を勉強し始めるのでしょうか。言語の知識が仕事に必要だから、あるいは外国語を勉強するのが好きだからなど、理由はいろいろあると思います。それから、どんな気持ちをもって学習を進めるのかも、人それぞれだと思います。

私が日本語と出会ったのは高校生のころでした。双子の弟が日本のアニメをいくつか紹介してくれたときに、初めて実際に日本語を聞きました。声優の沢城みゆきさんや神谷浩史さんなどの声を聞いて、日本語がすぐに好きになって、大学の日本学科に入って日本語を勉強するという重大な決意をしました。大学からようやく合格通知をもらったときには、「よしっ!このチャンスを逃がしてはいけない!本気を出して精いっぱい頑張ろう」と決心して日本語を勉強し始めました。以前、高校ではドイツ語と英語を習っていましたが、それは自分自身が決めたことではなかったので、日本語を勉強し始めたときに、自分で選んだ外国語を学習するのはこんなに楽しいものなんだと初めて体験しました。

そのときからもう3年間も経って、現在はエルテ大学日本学科の卒業生です。先生方に対して本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この3年間はあっという間に終わったと言っても間違いだと思います。正直に言うと、ひらがなやカタカナを教えていただいたのもまるで昨日の出来事のように感じています。しかし、よく考えてみたら、この3年間でたくさんのことに挑戦したりできて、新しい経験がいっぱいでした。

日本語の勉強は私にとってどのようなものだったかという、楽しく勉強できたとも言えますが、やはり簡単には行かなくて大変なこともありました。日本語で何が一番難しいかとよく聞かれますが、アルファベットを使っているハンガリー人の私にとって一番難しいのはどう考えても漢字です。書けるはずだと思った漢字が書けない、もうずいぶん前に習った漢字なのに読めない、ということが多くて、そういう時に本当に悔しい気持ちになります。ずっと練習していけば、結果が絶対に出るはずですが、自分が想像したほど

上手くはできないことに気がきました。

難しいのは漢字だけではありません。どんな言語を勉強しても、文法の説明を理解して練習するのが一般的ですが、言語の学習がそれだけでいいというのは甘い考え方だと思います。実際に母語話者と話さないとわからないことや、教科書には見られない言い方がたくさんあるでしょう。だから、私はそういう「日本人らしい」表現や言い方の中から一つ選んで卒業論文のテーマにしようと決めました。

日本語を学習するにあたって、大きな壁をいくつも発見しましたが、「否定疑問文」はまさにその一つだと思います。なぜかという、否定疑問文に対しては肯定か否定の判断がなされますが、何に対して肯定または否定なのかは、場面によって違うからです。た



例えば、Aさんが本当に高いか安いかわからなくて「これ、高くない?」と聞くと、Bさんに期待されている答えは「うん、高くない」または「ううん、高い」になるでしょう。しかし、質問者が値段を見て高いと思いつつながら「これ、高くない?」と聞くと、期待されている答えは「うん、高い」または「ううん、高くない」になります。

また、調べているうちに、否定疑問文には様々な意味や意図が隠れていることがわかりました。例えば、「この部屋、少し暑くないですか?」という質問では、「暑くない部屋の方がいい」つまり、「窓を開けてほしい」という論しのような意図を表すことができます。

日本語の否定疑問文についての論文をいくつか読んで感じたことを簡単にいうと、「言葉は文化である」ということです。日本人はおそらく否定疑問文を自然に使っていますが、外国語として日本語を勉強している私にとってはその使い方はあまり簡単

ではありません。この用法を使えるようになりたいです。それから、もっとたくさんの知識を得られるように、また、日本人の方々に対して敬意をもって話せるように、卒業論文を通して、もっと日本語を上達したいと思うようになりました。

ここまでの道のりはたまに辛かったかもしれませんが、やはり外国語を勉強するのはとても楽しいです。今の私が毎日楽しく過ごせるのは日本語のおかげだと思っています。それに、日本に行きたいという気持ちもとても強くなりました。もし、より深く現代日本語に関して研究したいなら、日本にいかなくやめだと思っています。今学期、文部科学省の奨学金に応募して、日本に留学できることになりました。私が大好きな「日本人らしい表現」を研究して、これからは前向きに頑張っていきたいと思っています。

(サボー・ダーニエル)

## 錦織選手に欠けているものは精神的な強さか、 それとも身体的な強さか

盛田 常夫

全仏オープンを終えて、テニス界は沸いている。31歳になるナダル選手が全仏10回目の優勝という快挙を達成したからである。一度の優勝ですら至難なグランドスラム大会で、同一大会10回優勝という記録は、今後も破られることはないだろう。

昨年は手首の怪我で精彩を欠き、ナダル選手のキャリアは終わったとみられていたが、見事な復活である。リオ五輪では、錦織選手が手負いのナダルに勝利して、何十年振りだとかで騒いだ日本のメディアはプロテニスの世界を知らない。五輪の大会はエキジビション的な競技だから、マレーを破って金メダルなら少しは価値があったと思うが、銅メダルで大騒ぎするのは見苦しい。

ナダルと同じく、長らくツアーから遠ざかっていたフェデラー選手も、35歳になった今年、全豪オープン優勝で驚かせた。ナダルもフェデラーも、30歳の峠を越し、キャリアの終盤に差しかかっている選手が、圧倒的なプレーをみせている。フェデラー、ナダル、ジョコヴィッチ、マリーは、この十余年間、男子テニス界を支配してきた。それに続く、ワヴリンカ選手も、グランドスラム大会3勝を記録している。これほど力が接近した複数の選手が長期にわたって競い合う

のは、非常に希有なことだ。しかも、これら5選手が皆、今年で30歳を超えた。30歳を超えても、若手の追従を許していない。

この5人に続くのが、ラオニッチ、チリッチ、錦織の世代だが、チリッチー錦織世代とトップ5との年齢差は小さい。このチリッチー錦織世代を急迫しているのが、23歳のティームと20歳のズヴェレフである。ニュージェネレーション(新世代)と呼ばれるこの2人に代表される世代が、次代の男子テニス界を背負うことは間違いない。

チリッチー錦織世代は下から有望な若手に激しく追いつけられ、上には依然として、とてつもない強力な世代が塊をなして行く手を阻んでいる。チリッチー錦織世代が「狭間の世代」と呼ばれる所以である。

### トップ5のどこが凄いのか

グランドスラム大会を複数回制した選手には、皆、それぞれ他を圧倒する力がある。制球の効いたサーブと速い展開のストロークでハードコートに強いフェデラー、赤土コートで絶対とも言える正確無比のストロークで圧倒するナダル、鉄壁の防御で球を跳ね返しどのサーフェイスでも強いジョコヴィッチ、無尽蔵のスタミナでストローク戦を勝ち抜くマリー、世界一の片手のバ

ックハンドストロークで相手を粉砕するワヴリンカなど、皆、それぞれに独自の武器を持っている。

不思議なことに、このトップ5のなかには、剛球サーヴァーはいない。ワヴリンカのサーブ平均スピードは200Km/hを超えるが、ほかの選手のファーストサーブの平均速度は190Km/h前後である。フェデラーはスピードではなく、サーブの制球力で勝負している。ナダルのサーブスピードは速くないが、左利きの独特なスピンを効かせたサーブが、リターンを難しくさせている。ジョコヴィッチとマリーのサーブには特筆できる特徴はないが、必要な時に、200Km/h前後のサーブを繰り出せる力をもっている。

トップ5の身体能力もまた、きわめて高い。身長185cm~190cmで、体重も80kg前後である。これだけの体躯でも非常に俊敏で、足も速く、4-5時間戦っても次の日の試合に勝てる凄いスタミナをもっている。グランドスラム大会は5セットマッチだから、3セットで終わる試合でも2時間前後の時間がかかり、競った試合では3時間を超え、場合によっては4時間を超えることもある。4回戦以降はシード選手のぶつかり合いになるから、優勝するにはここか

### 編集部よりのお知らせ

「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。 <http://www.danube4seasons.com>

皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。

原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書をお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。





ら4試合の長丁場を勝ち抜くスタミナがなければならぬ。4回戦が始まるグランドスラム大会の2週目は、体の強さが試される場である。

2014年に、錦織選手とチリッチ選手がビッグ4を次々に破って、全米オープン決勝に進出し、世代交代の始まりかと期待されたが、その後はビッグ4の逆襲に加えて、ワウリンカ選手の健闘で、テニス界は再びビッグ4あるいはビッグ5が支配する世界に逆戻りして、チリッチー錦織の出番がない。

### 錦織選手に欠けるもの

史上最高レベルの男子テニス界で、小柄で華奢な錦織選手が3年にわたってトップ10を維持していること自体は驚異である。今以上のランキングや勝利を求めるのは酷なのか、それともまだマスターズやグランドスラム大会でトップを狙える力があるのか。年齢的にも頂点を迎える歳になっているので、皆、そこが知りたいところだ。

トップ100で、錦織選手より背丈が低い選手が何人かはいるが、皆、腕が太く、胸板が厚い。見た目でも華奢な錦織選手が、2mを超える大男を相手にゲームを支配しているのは痛快である。年間を通してツアーを戦う競技で、テクニックだけでなく、体の強さと精神的な強さがなければ、この世界のトップ10に入ることはできない。その意味で、小さな体でトップテンを守っている錦織選手の偉業は称賛してもし切れない。

しかし、2014年全米準優勝以後、今一つ、テニスファンの期待に応えられていない。現状が錦織選手の限界なのか、それともまだトップに食い込む力を出し切っていないのか気になるところだ。全米決勝以後、勝負強さが増し、格下の選手に簡単に負けない勝負強さが備わった。しかし、他方でトップ5の選手にたまたま勝つことはあっても、勝ちきれない弱さが残っている。今年に入って、サーブレシーブも、ストロークも、以前より下手になったように感じるのは私だけだろうか。

さらに、昨年来、調子が良い時と悪い時の状態が極端になってきた。それは一つの試合の中で言えることだ。調子が良いとき

には、まさにナダルのように相手を圧倒し、まったく寄せ付けないが、その後は人が変わったように、凡ミスを繰り返して負ける試合が何度もあった。松岡修造氏を含めたテニスの専門家は、これをメンタル的な弱さだと指摘するが、そうは思わない。メンタルな部分より、フィジカルな弱さが、不安定な試合の原因だと思う。

錦織選手の体の強さを測る指標の一つが、サーブスピードである。とくにスピードが速いとは言えないトップ5の選手に比べても10-15%は遅い。ファーストサーブは遅くても叩かれることは稀だが、セカンドサーブの遅さは致命的である。相手選手は錦織選手のセカンドサーブを狙っているから、セットを締めるはずのサーブゲームを簡単に決められない。それが錦織選手の試合時間を長くしている。

長時間のテニスの試合では、どの選手でも体調が上がる時間帯と下がる時間があるが、その波を小さくするのが体の強さである。トップ5の選手はこの波を小さくする体の強さがある。これにたいして、錦織選手は競ったセットを失った後のプレーが脆(もろ)くなっている。メンタルな部分はもちろんあるが、メンタルを支える体の強さがないと考えるべきだろう。トップ5の選手に比べて、体躯と体の強さに欠ける錦織選手のスタミナ切れが早い。

小さな故障や怪我が多いのも、錦織選手の体の弱さを教えている。競ったゲームが続く度に、股関節、脇腹、腰、手首を痛め、メディカルタイムをとり、最後には負けるというパターンが続いている。他の選手も怪我で悩まされているから、体が小さい錦織選手が怪我をするのも仕方がないが、トレーニングを工夫して、怪我の予防に努めることができないのだろうか。フィジカルトレーニングを担当するコーチもいるはずだが、もう少し体幹を鍛えて簡単に壊れない体を作れないのだろうか。

体が強くない錦織選手が、相手選手より先にスタミナ切れを起こしたり、痛みを感じてしまったりしたのでは、トップ5の壁を破ることはできない。一時的にトップ4にランクインしたことはあるが、長期にわたってビ

ッグ4に食い込んだことはない。しかし、強固な体躯のある選手が多数を占める現在のパワーテニスの世界にあって、体のハンディがある錦織選手にそれを求めるのは無理なのかもしれない。それでもテニスファンは、錦織選手がもう一回り強くなって、マスターズを制したり、グランドスラムを制したりする日が来るのを楽しみにしている。そのためにも、もう一段、体の強さを高めて欲しい。それができなければ、今以上の活躍を期待するのは難しい。

(もりた・つねお)

貴方の足の状態を  
矯正し、最適にする  
オーダーメイドの  
インソール  
を作ませんか

podiatry  
ORTHODONTIC - PFB

## 留学生自己紹介

### ハンガリーとの出会い

エトヴェシュ・ロラーンド大学博士課程

今井 恋

ブダペストに来て早4年、私はエトヴェシュ・ロラーンド大学博士課程で認知言語学を勉強しています。認知言語学とは、言語とそれを使う人間の思考との関係を明らかにしようとする研究分野です。昔から国語の授業が大好きで、今でも変わらず「ことば」が好きな私は、卒業論文も修士論文も言語学について書きました。その時に読んだ本の著者である教授を追いかけて、エトヴェシュ・ロラーンド大学入学を決めました。

日本学生支援機構の奨学金が決まり、日本の大学の先生方にも応援してもらって、嬉しい気持ちいっぱいでも始めたこの留学は、私にとって試練の始まりでした。課題で出される文献のほとんどは英語、授業での討論はハンガリー語、でも内容は日本語で理解したい。その時々で柔軟に対応できる頭を持ち合わせていないがために、頭の中は常にパニックに陥っていました。勉強ができなさすぎて、それがとても悔しくて、今までの学生生活で一番泣くことが多かったように思います。それでも未だに投げ出さずにいられるのは、相談に乗って研究を評

くれる友だちや、いつでも根気よく励まして支えてくれる主人や、遠くにいても温かく見守ってくれている日本の家族、友人がいるからだと思っています。

大変だったことを先に書いてしまいましたが、認知言語学に情熱を傾ける人たちと話すことは兎にも角にも楽しいものです。有名な言語学者が大学に来るときは、まるでイケメン俳優に会えるような気分になるし、その人たちの講演を聞きに行くときは、アイドルのコンサートに出かける時のようにウキウキします。結局は「ことば」について勉強することが好きなのです。ハンガリー国内はもちろん、アクセスのよいヨーロッパ内の学会に参加する機会を得られたことも、留学してよかったことのひとつです。

ハンガリーとの出会い、そしてハンガリーでの出会いは、確実に私の人生を変えるものでした。初めのきっかけは、高校生の時に読んで面白いと思った本がマーライ・シャンドルの「灼熱」だったり、出身地岐阜県とヴェスプレーム県が友好関係にあると知ったり…。そんな些細なつながりを運命だと

思い込み、大阪外国語大学(現大阪大学)でハンガリー語を専攻しました。新しい言語を学ぶことは刺激的で、「ことば」にどんどん魅かれていきました。小さな頃から海外に住むことに憧れていたため、そのまま迷うことなく学部3年生の時に1年間、ブダペストで語学留学をしました。語学学校に

まっていた。そこで出会った気の合う韓国の友人は、今ではハンガリーで働くバリバリのキャリアウーマンになっていて、1年間寝食を共にしたロシアの友人は、ハンガ



リーで子育てをする立派なママになっています。10年近く経った今でも彼女たちとこうしてつながっていられるのは、お互いハンガリーに魅了されてしまったからでしょう。実は、主人と出会ったのもこの語学学校でした。縁とは本当に不思議なものだな、と思います。

ハンガリーで過ごしていると、日本ではあまり感じなかった理不尽な差別を目の当たりにしたり、感情の赴くままに突き付けられる「ことば」に傷つくことがあります。そんな私を救うのもまた心のこもった「ことば」です。支えてくれる人たちを大切にしながら、好きなことを精一杯やり抜きたいと思います。

今取り組んでいる博士論文では、私の頭の中にある「ことば」を余すことなく詰め込んで、きちんと形にしたいと思います。そしてその暁には、恩師、家族、友だちに読んでもらいたいです。

(いまい・れん)



価してくださる先生方や、外に出かける心の余裕がなくて何度断ってもめげずに誘って

は、世界各地から、ハンガリーにルーツを持った子や言語・文化に興味を持った子が集



## 留学生自己紹介

### ハンガリーに留学して

リスト音楽院大学院ピアノ科

中島 幸治

ハンガリーに来て3年が経ちました。1年目はパートタイム生として、2年目からは大学院生として在籍しています。

ハンガリーへの留学を目指したきっかけは、母校の日本の大学とリスト音楽院が国際交流協定を結んでおり、リスト音楽院の教授であるラントシュ・イシュトヴァーン氏を客員教授に迎え、毎年、定期的に行われる特別レッスンを受講したことが始まりでした。先生の指から奏でられるピアノの音色は神秘的なほど温かく、的確なアドバイスにすっかり虜になりました。

留学の1年目は、シャンドル・ファルヴァイ教授に師事しましたが、先生との出会いは札幌で開催されているリスト音楽院セミナーを受講したことでした。セミナーではラントシュ、ファルヴァイ両氏のレッスンを受け、技巧から背景まで曲の解釈を読みとり、楽譜を正しく読む大切さや、系譜的にリストから受け継がれたヨーロッパの正統派音楽を学べることに感動しました。

大学院に入学した2年目からは、パール・ダーヴィット、ファルカシュ・ガーボルの各氏に師事しました。

留学して自分に足りない点を強く感じたのは、表現することの大切さでした。それは、独りよがりの演奏をするという意味ではなく、作曲家の意図するものを汲み取り、どのような音色で何を伝えたいのかを常にイメージすること。それを意識することによって、楽譜に書かれてある作曲家のひとつひとつのメッセージを大切にしながらも、自分の言葉としての音楽を表現出来るということに気づかされました。

日本とは少し異なる聴衆の反応にも刺激を受けました。少々ミスがあっても、演奏家の表現したいことを感じとり、盛大な拍手を送り温かい耳で聴いてくれる聴衆。それは、音楽が常に生活の一部としてある故のことなのでしょう。

ハンガリーでの生活は、日本とはまるで違う空気感を感じます。ヨーロッパ特有の美しい街並み、異文化での生活。例えば、冬の寒い日でも外のテラスでビールを飲みながら陽気にお喋りする人々…。当たり前の日常。日本ではテレビ画面を通してでしか感じるこののできなかったものが、五感で

てもらいました。最初は呪文のようにはか感じられなかったハンガリー語ですが、家族と片言でも話しているうちに、少しずつ理解できるようになりました。ハンガリー語はアクセントが語の頭にきます。今まで日本でバルトークの作品を弾いた時には理解し難いリズムが、ハンガリー語を少し理解できるようになると、まるで違う音楽に捉えることが出来たことは大きな収穫でした。それによって、音楽と言語は密接な関係にあるということも実感しました。

家を出た今も家族とは交流が続いており、時々招待してくれてはハンガリー料理をふるまってくれます。時には何時間もお喋りをしたり、ハンガリー語の勉強を一緒にしてくれたり本当の家族のように受け入れてくれます。

この3年間での留生活では辛いこともありましたが、ハンガリーの家族、日本の家族、友人、先生方、なにより音楽に支えられて乗り越えられたように思います。そして、留学をしなければ得られなかったであろう、憧れのピアニストとの素敵な縁もありました。

日本ではなかなか聴く機会がなかった巨匠の演奏を聴いたり、オペラを観たり、いろいろな音楽を聴いて過ごせた日々はとても幸せな時間でした。

留学したことにより自分の引き出しを広げられたこと、そして音楽を共に学ぶ沢山の留学仲間と出会えたことは一生の財産になります。帰国まで数週間と迫った今、このハンガリーで学んだ経験と知識を生かし、感謝の想いを胸に秘め、地元での音楽発展に微力ながらも貢献することが出来ればと思っています。

(なかじま・こうじ)



味わうことができる。著名な音楽家の演奏を連日のように聴くことができるのはもちろん、こうした現地でしか味わえない空気感を感じられることも留学の醍醐味なのではないかと思います。

ハンガリーに来て最初の半年間は、ハンガリー人の家族の許でホームステイをさせ

## 留学生自己紹介

## 視野が大きく広がったブダペスト留学

コルヴィヌス大学経済学部

大淵 唯太

私は日本からの交換留学生として、約1年間コルヴィヌス大学に留学をしていました。ブダペストでの1年間の留学経験は、私の人生においてとてもかけがえのない経験となりました。

留学先としてハンガリーのコルヴィヌス大学を志望した理由は、旧共産国の経済・政治・社会体制に興味があったためです。マルクス・レーニン主義を国の中心に掲げ、冷戦が最も過熱した時代には世界の半分を席卷するほどにその勢力を拡大した社会主義圏ですが、20世紀の終盤にはソビエト・東欧諸国の崩壊や社会主義を掲げる国々の政治・経済体制が刷新され、社会主義計画経済を掲げる国は全く消え去ってしまいました。なぜ社会主義計画経済はその運営に失敗し、一方で民主主義市場経済は一応の成功を得たのか、それらの理由を学んでみたい、コルヴィヌス大学に留学をすればそれらに関連したことを勉強できるのではないかと考えハンガリーへの留学を決意しました。

コルヴィヌス大学では資本主義と社会主義の構造の違いを比較する授業や、旧東側諸国が運営した社会主義がどのような構造的欠陥により崩壊をしたのかを分析する授業などを履修しました。コルヴィヌス大学での授業はどの授業においてもレベルは高く、英語が満足にできない私にはひとつひとつの授業の予習・復習が非常に大変でした。ヨーロッパの学生は授業を受けるということに対して常に能動的であったので、私も彼らの勉強に対する前向きな姿勢を見習い、授業で分からないことがあった場合には積極的に教授に質問をするように心がけていました。私がお鞭撻をいただいたハンガリー人の教授たちはどの方も非常に気さくな方で、質問にも丁寧に答えていただけましたし、授業の内容も学生が興味を引きやすいように工夫されているように感じ

ました。

留学中には同じくコルヴィヌス大学に留学をしている留学生たちと交流をするため、台湾人の友達と一緒にESN(エラスムス・スチューデント・ネットワーク)主催のイベントに参加しました。私はブダペスト市内にアパートを借りて、そこで1人暮らししていたのですが、ESNのイベントでは1泊2日などの泊まり込みで旅行に行くイベントなどがあり、様々な国の留学生と同じ部屋で肩を並べて寝たのは良い思い出になりました。私以外のESNグループとしての留学生は大多数がハンガリー以外のヨーロッパからの留学生でした。しかしその中でも英語をネイティブとして話すイギリス人やアメリカ人は少なく、ドイツ・オランダ・フランスなど英語を母国語としない人が多く、それぞれ自分の母国語のイントネーションに引っ張られた英語を話していたため、ヒアリングに苦労しました。とはいえ、私も「ジャパニーズ・イングリッシュ」で喋っても問題ないという気持ちを持てたため、下手な英語でも喋りやすかったのを覚えています。英語は英米人と話すためのだけの言語ではなく、世界中の人々とコミュニケーションを図るための「世界共通語」なのだ改めて認識しました。

また、私は留学中に様々な国を訪れました。私が旅行をする際には、何か一つ自分の中でテーマを持って国々を訪れるように心がけていました。私は高校生の頃から、思想・宗教・民族対立から起こる紛争または戦争に大変興味があったので、旅行に訪れる場所もそれらのテーマに沿った痕跡や実情を勉強できる場所を選んで旅行しました。ドイツ・ベルリン、ポーランド・アウシュビッツ、ボスニアヘルツェゴビナ・サラエボ、ウ

クライナ、セルビア、古代ギリシャ文化・思想への興味のためにギリシャなどへ旅行しました。これらの国と地域は歴史の混乱の中で様々な思想・宗教・民族対立の渦中に立たされてきた国々です。四方の国土が海で囲まれており、ほぼ日本民族のみで社会が構成されている日本で育った我々にはなかなか理解がし難い感覚ですが、ヨーロッパの国々は領土が他国と陸続きであるため、今も昔も民族対立や思想的・宗教的相違に起因する領土紛争や政治的対立が度々起こっています。それらの内情を少しでも理解したいと考え、実際に訪れてみるのが一番の近道であると思って旅行をしていました。ハンガリーというあまり日本人に馴染みのない国を留学先に選んだのも、東西冷戦という米ソ対立の枠組みの中で、ハンガリーが東側の陣営として組み込まれていた過去があり、その歴史や実情を深く知りたいと思ったためです。

ほとんどの場所を1人旅で渡り歩きましたが、1人旅の醍醐味は何とんでも「現地の人たちとの交流」にあると思います。自然と現地の青空市場の店員や街を歩いている人に喋りかける機会も多くなっていきます。アジア人が珍しいのか「どこから来たんだ?」といった具合に街の人が喋りかけて



きてくれて、そこから会話に発展していくケースも多かったです。1人旅の中で私は多くの人たちと出会い、そして助けられてきました。滞在先の国々ではホテルではなくホス



## 留学生自己紹介

テルを使用することが多かったので、ホテルの中で他の旅行者と知り合いになることもよくありました。ベッドに寝転がっているうちに対面のペルー人と仲良くなって一緒にベルリン観光をしたのはいい思い出です。

また、ギリシャでは「ペラ」という北部の田舎町のバスターミナルで、都市に出るための1時間に1本出るか出ないかというシャトルバスを乗り過ごしてしまい、無人のバスターミナルのベンチで途方に暮れていたところ、ギリシャ人のおじさんが、「テッサロニキまで行きたいのか？なら俺もそこに行くから乗せてやるよ！」と片道1時間近くあ

る道をおじさんの車で乗せて行ってくれたりもしました。もちろん無料です、お金はとりません。おじさんは自分の息子が学校？の徒競走で1位をとって、その時に彼が貰った金メダルを僕にとっても嬉しそうに見せてくれました。「父親って世界中どこにいてもそんなに変わらないんだな」と心の中で思いました。私もおじさんも英語はあまり上手く喋れませんでした、とても心が温まる経験でした。おじさんと別れる際に名前を聞き忘れてしまったのが今となっては心残りです。

今、改めて留学を振り返ってみると、この1年間で自分の見聞が大幅に広がったこと

を実感しています。また、海外から日本という国を見つめなおしたことによって、日本の持つ良い部分、反対に改善すべき部分を発見することができました。このようにハンガリーという国に留学を経験したからこそ得ることができた「海外から見た日本」という観点を、これからの自分の「強み」または「一種のスキル」として活用していければと考えています。同時に今後はハンガリーで学び得た貴重な経験を自分の糧として一層努力し、日本と世界を経済や文化といった面で繋いでいくお手伝いをしていきたいと思えます。

(おぶち・ゆいた)



## 私と日本 森田 紀花

森田紀花と申します。ハンガリーの名前はノーラです。14才で、来年から高校生です。お母さんが日本人で、お父さんがハンガリー人なのでハーフです。弟も同じです。ヴェスプレームに住んでいます。ヴェスプレームはバラトン湖の北側にあります。

今年から補習校へ通い始めました。ブダペストまで電車で1時間半かかります。駅から学校まではまだ遠いので、そこまで補習校にいっしょに通っている子のお母さんが迎えにきてくれます。補習校では漢字がとても難しいです。漢字テストで百点を取ると賞状がもらえます。漢字検定もがんばってとりたいと思っています。

何年かに一度、日本の親戚を訪問して、いろいろなところを旅行したり、おいしいものを食べたり、日本の文化を楽しみます。今年は春に訪問しました。初めてお花見をしました。私は日本の中で桜がいちばん好きです。小学校の卒業祝いに着物ももらいました。柄は桜です。

それから、温泉旅館にも行きました。床に座ってごちそうを食べました。たくさんの種類の魚介類や春の山菜を食べました。私はウニと貝が一番おいしいと思いました。日本の食べ物ではぶりのお刺身が大好きです。

ショッピングもたくさんします。弟は百円ショップで変なものをいっぱい買いました。私はヴェスプレームで音楽学校に通って歌を習っています。だから日本語の楽譜を買いました。1冊は「日本の歌」で、もう1冊は「スタジオジブリ」です。この中から曲を一つ選んで試験で歌いました。教会の中だったのでとてもきれいに聞こえたと思います。その曲は「千と千尋の神隠し」という映画の中の「いつも何度でも」でした。

日本に行くときは友達からいつもお菓子を頼まれます。だからポッキーとかきのこの山とか抹茶味のチョコレートを買ってきます。みんなとても喜んでくれます。今年の夏休みは、柔道をしている5才の男の子に日本語の家庭教師をする予定です。絵のカードを使って簡単な単語を教えるつもりです。

私と日本で今思いつくのはこのぐらいです。

(もりた・のりか)







## 遠足日和 根岸 和奏

5月20日土曜日、みどりの丘日本語補習校恒例の遠足が行われました。雨の不安もあった中、絶好の遠足日和となりました。

今回の行き先はセンテンドレのpap-szigetキャンプ場でした。みんなで1台のバスに乗り、おしゃべりしながら楽しく向かいました。しりとりやクイズ、夏休みの予定など、初めての他学年とも仲良くお話出来ていてほっこりしました。

キャンプ場について軽く休憩をした後、班活動としてオリエンテーリングを行いました。クロスワードを解きながら、指定された道順でキャンプ場を歩いてゴールを目指しました。正しい道順、隠し時間、クロスワード、そして問題にそれぞれポイントが割り当てられていました。問題は事前に先生方から集めたもので、「し点の読み方は？」から「はなのみちのお話でくまさんがおうちの中で見つけたものは？」まで、各学年の学習内

容を基に出題しました。そうすることで、低学年の子も解答に参加することが出来ました。答えの分かった中学生や高学年の子達が、ヒントを出して分からない子を助けてあげていたのが特に印象に残っています。どの班もしっかり答えられていて、講師としてとても嬉しく思いました。また、手を繋いで歩いていたのもとても微笑ましかったです。

オリエンテーリングの後は、そのまま芝生の広場で綱引き大会を実施しました。2カ所にわかれての班対抗戦はとても白熱したものになりました。かけ声をそろえる班、一生懸命に引く張る班。そして、兄弟や友達を応援する子供達。「負けたくない」という強い気持ちが伝わってきました。見ている私たちも熱くなり、参加したくなるほどでした。次の試合のために縄を直す手伝いも進んでしてくれ、子供達の成長を感じることが出来ました。

そしてみんなお待ちかねのお昼休憩。班ごとにレジャーシートをくっつけ、お弁当を広げました。どのお弁当もとても美味しそうで、お母さんお父さんの愛情が感じられました。「これが好







## 緑の丘補習校



きなんだ」、「お母さん得意なんだよ」とお弁当の中身を嬉しそうに紹介してくれました。おかずやおやつを交換する姿も見受けられ、なんだか学生時代が懐かしく感じられた瞬間でした。午前中の活動で打ち解けられたのか、笑いの絶えないお昼休憩となっていました。

午後はペットボトルの円筒飛行機(ロケット)作りをしました。ペットボトルを2カ所輪切りにし、2本のストローでくっつけ、重りにテープを貼るというシンプルなものです。はさみを使うときは高学年の子達がしっかり見てあげていました。切るときに押さえてあげたり、ストローを持ってあげたりとお互いに協力して工作に取り組むことが出来ました。完成したロケットはさっそく外で飛ばしてみました。班で一番飛ぶ人を選んでもらい、競争もしました。班選抜は男女も学年もバラバラで、例えば私の班は2回とも1年生が出場しました。みんなが活躍できる良い活動だったと思います。

帰りの会では、1日を通しての印象をもとに、各班の先生方から1人1人に賞状が贈られました。また、班をまとめてくれたリーダーさんにもそれぞれ賞状が贈られました。前に並んだ子供達の顔はとてもキラキラしていました。

「お家に帰るまでが遠足」とよく言いますが、無事子供達を見送ったところで、私たち講師の役目は終わりました。その逆も然り、当日に至るまでの準備も含めて「遠足」なのだ、準備に関わって強く感じました。

今回も、遠足係の先生を中心に前年度末から準備が進めら

れていました。特に場所決めの際は、メールがなかなか返ってこなかったりギリギリに断られたりとハプニングの連続でした。当日も、バスが遅れてしまったために午前中の活動が駆け足になってしまいました。やはりここはハンガリー、日本のように行かないのだなあと、しみじみしてしまったほどです。様々なことを乗り越え、子育てをなさったり、講師を続けてこられている皆さんは本当に凄いと思います。

また、中2、3のリーダーさん、中1、小6のサブリーダーさんも準備から当日までとてもよく頑張ってくれました。貴重な20分休みを使ってのリーダー研修では熱心に話を聞き、良い質問も出ました。遠足前の集まりでは遠足について分かりやすく説明してくれました。班の顔合わせでも、班名決めなどしっかり意見をまとめていました。先輩後輩のような縦のつながりを垣間見ることが出来たように思います。

遠足係補佐として準備から関わった今回の遠足は、至らない点も多く、反省点はもちろん沢山あります。しかし、原稿を書くに当たって写真を見直したところ、楽しそうな子供達の姿を思い出しました。「日本語で仲良く楽しく活動する」という遠足の目標は達成できていたので、良い遠足になったと信じています。保護者の皆様、講師の皆様、そして主役である子供達、みんなのおかげで素晴らしい「遠足日和」となりました。この場を借りて、心からのお礼を。ありがとうございました！

(ねぎし・わかな)





# イングリット・フジコ・ヘミング

With マーヴ交響楽団

指揮: コシク・マーリオ (スロバキア放送交響楽団常任指揮者)



## 【プログラム】

- ドボルザーク: 交響詩「真昼の魔女」 Op. 108, B. 196  
ショパン: エチュード Op.25-1 変イ長調『エオリアン・ハープ』  
Op.10-3 ホ長調『別れの曲』  
Op.10-5 変ト長調『黒鍵』  
Op.10-12 ハ長調『革命』  
リスト: パガニーニ大練習曲集第6曲「主題と変奏」  
『愛の夢』『ラ・カンパネッラ』  
ドボルザーク: 交響詩「水の精」 Op.107  
リスト: ピアノ協奏曲第2番 イ長調

2017年9月28日(木) 19:00 開演  
リスト音楽院大ホール (1061 Budapest, Liszt Ferenc Tér 8.)

チケット(全席指定):  
4000, 3000, 2000 HUF

企画: マーヴ交響楽団、Propart Hungary Bt.

チケット取扱情報: [www.jegy.hu](http://www.jegy.hu), <http://www.mavzenekar.hu>

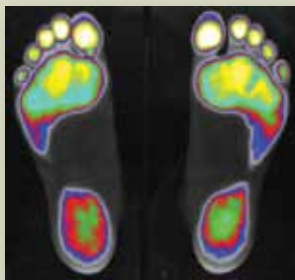
リスト音楽院チケットセンター, [Interticket.hu](http://Interticket.hu) 系列各チケットセンター

お問合せ: Propart Hungary Bt. Tel:+36-703815548

Mail: [proparthungary@gmail.com](mailto:proparthungary@gmail.com) (日本語可)



# 足裏圧力測定から オーダーメイドのインソール制作

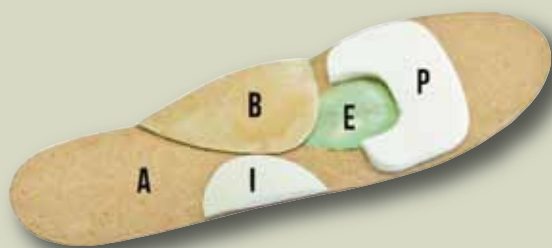
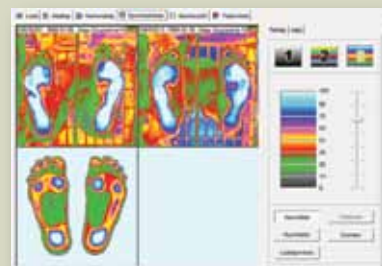
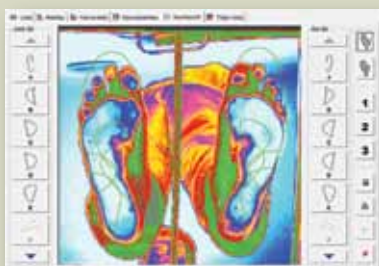


理想的な圧力図



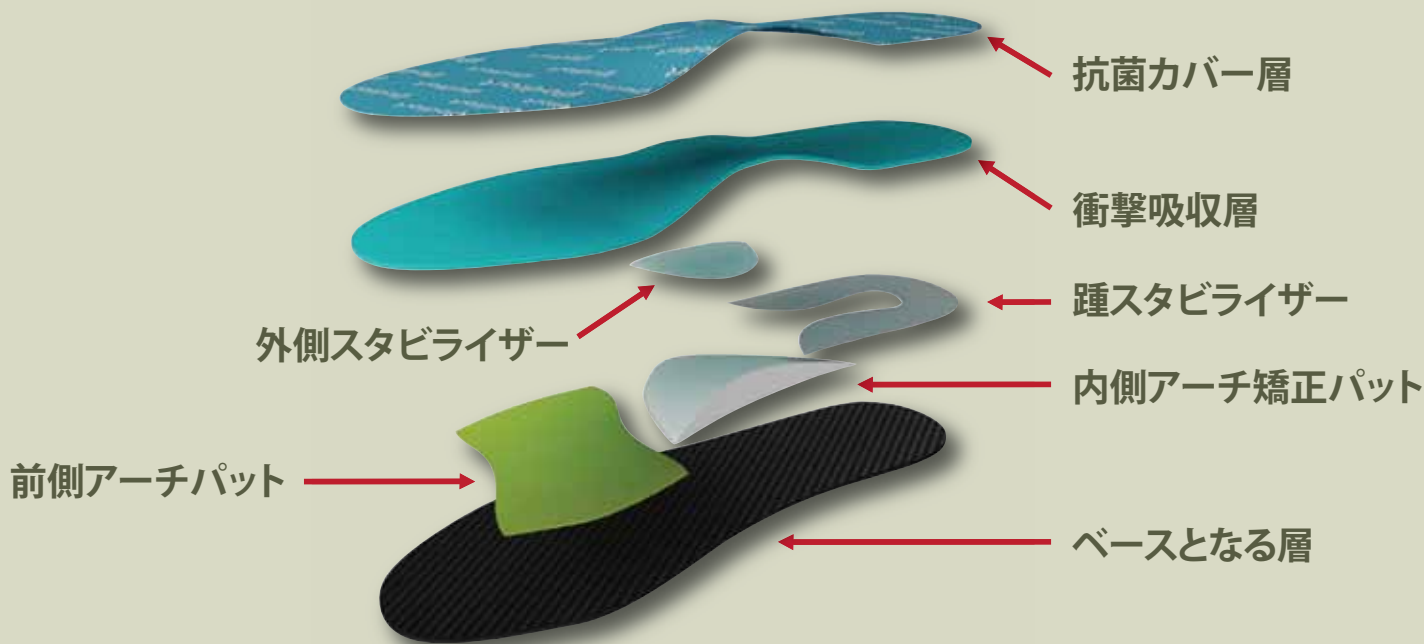
あなたの足裏圧力を  
測ってみませんか？

自分にあったオーダーメイドの  
インソールを造りませんか？



熟練したデザイナーが貴方に適した  
インソールを作成し足裏圧力を矯正します

## ハンガリーPodiart社が制作する オーダーメイドのインソール構造





Heat Therapy in Oncology—Oncothermia  
New Paradigm in Hyperthermia  
Andras Szasz and Tsuneco Morita

# 腫瘍温熱療法—オンコサーミア

ハイパーサーミアのパラダイム転換—医術から医学へ

サース・アンドラーシュ / 盛田常夫 [著]



日本評論社

## 温熱治療のパラダイムを転換する

温熱治療を根本から見直し、  
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。  
ドイツでは百か所以上のクリニックで、  
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。  
大手書店、Amazonにて購入可。

### 第4章 腫瘍温熱療法

- 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
- 4.2 ハイパーサーミアの手法
- 4.3 熱の作用と併用効果
  - (1) 熱と血流
  - (2) ハイパーサーミアの併用効果
- 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
  - (1) アンテナ放射
  - (2) 磁場(コイル)
  - (3) 容量性カップリング
  - (4) 伝導加熱
- 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題

### 第5章 オンコサーミアの理論と方法

- 5.1 電場の利用
- 5.2 細胞燃焼
- 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
- 5.4 ミクロスコピック加熱
- 5.5 集束化の原理
- 5.6 温度の役割
- 5.7 安全性
- 5.8 積算量(ドーズ)
- 5.9 臨床事例

### 第6章 自然療法としてのオンコサーミア

- 6.1 ホメオスタシスの復位
- 6.2 細胞の自然死の促進
- 6.3 細胞転移の阻止
- 6.4 転移がん細胞に作用

### 第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価

- 1.1 ハイパーサーミアとは何か
- 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
- 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
- 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア

### 第2章 ハイパーサーミアの物理学

- 2.1 電磁気学の基礎概念
  - (1) 電磁気現象
  - (2) 電場と磁場
  - (3) キャパシタ
  - (4) 位相シフト
  - (5) インピーダンス
  - (6) 電磁波
- 2.2 バイオ電磁気学
  - (1) 電磁波スペクトル
  - (2) バイオインピーダンス
- 2.3 「非熱」効果
  - (1) 非温度依存(NTD)効果
  - (2) 電磁場におけるNTD効果
  - (3) 電磁気による目標選択
  - (4) 電磁気と生体システム

### 第3章 ハイパーサーミアの生理学

- 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
- 3.2 生体における温度制御
- 3.3 生体の加熱と体温
- 3.4 加熱による温度の分布
- 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
- 3.6 加熱と冷却:リスクとその回避
- 3.7 温度測定と熱積算量(ドーズ)



## コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク  
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

# コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込）◆A 5 判／ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



## 体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

### 第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

### 第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



## なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

# 異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。  
ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

## 体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

# ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円

